

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

子どもたちとともに「こころ」と「からだ」を育む学校

1. 支援教育の専門性や指導技術の向上をめざすことで、児童・生徒を一人ひとり大事にし、“生きる力”をしっかりと伸ばす学校
2. 児童・生徒が共生社会へ出て、自立的にたくましく生きていくため、保護者、関係諸機関と連携し、支援ネットワークが構築できる学校
3. 児童・生徒が安全安心+快適に通い、楽しく過ごせる学校

2 中期的目標

1 支援教育における専門性及び指導技術の向上

- (1) シラバスの整備や指導計画等の様式の統一などを通じ、小・中・高3学部を見通した教育課程や評価のあり方の改善を行う
- (2) 教材、教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上及び質の平準化を図る。
- (3) ICT機器の活用をさらに高める。特にプロジェクターや書画カメラ、電子黒板化ユニットなどを使った新しい授業スタイルを構築する。
- (4) リーディングスタッフやコーディネーター等による校内支援や新たな研修等により、経験の少ない教員の専門性や指導技術の向上を図る。

2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現

- (1) キャリア教育のさらなる推進。特に小・中学部における教育の意識改革や所属教員が高等部卒業後の進路環境を知ることによる、教育課程への効果的なフィードバックを図る。
- (2) 児童生徒の居住地にある学校との交流及び共同学習（居住地校交流）や学校間交流をさらに進め、連携向上のためのシステムを構築する。
- (3) 八尾アスレチックフィールドを活用した授業の推進や、地域へのかかわりを深める活動を推進したりすることで、ボランティアや余暇活動、健康維持につながる取組みを推進する。

3 安全安心+快適で活力あふれる組織及び学校作り

- (1) 中河内支援教育研究会での役割分担や活動を活性化させ、地域の支援教育力の向上に寄与する。
- (2) ヒヤリハットの共有、緊急対応体制のさらなる定着を図り、教員間の情報の共有と連携のもと、個々の教職員が常に児童生徒の安全・安心をしっかりと守る体制を構築する。
- (3) 校務分掌や業務分担の見直し等で、業務の効率化を図り、児童生徒への直接的なかかわりの時間を増やす。
- (4) 教職員が健康にそれぞれの職務を遂行し、児童生徒・教職員ともに快適な職場の環境を構築する。また、会議等の効率化について検討する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 支援教育における専門性及び指導技術の向上	<p>(1) シラバスの整備や指導計画等の様式の統一などを通じ、小・中・高3学部を見通した教育課程や評価のあり方の改善を行う</p> <p>(2) 教材、教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上及び質の平準化を図る。</p> <p>(3) ICT機器の活用をさらに高める。特にプロジェクターや書画カメラ、電子黒板化ユニットなどを使った新しい授業スタイルを構築する</p> <p>(4) リーディングスタッフやコーディネーター等による校内支援や新たな研修等により、経験の少ない教員の専門性及び指導技術の向上を図る。</p>	<p>(1) 個別の教育支援計画や個別の指導計画などの様式の統一に向けて、評価のあり方について検討する。</p> <p>(2) ア. アーカイブ化したものを活用する方法を検討し、実際に授業改善や資質向上に役立てる。 イ. 教材や指導案等が共有しやすいように電子化に取り組んでいく。</p> <p>(3) ア. 図書室及び遊戯室に設置したプロジェクターや電子黒板ユニットなどを授業で活用できるよう活用研修を推進する。 イ. 校内無線LAN化にむけて、全教員がタブレット型端末の活用ができるようになる。</p> <p>(4) ア. LSやCOを中心にタイムリーな教育問題や課題に沿った情報提供をし、資質向上を図る。 イ. 経験の少ない教員向けに、相談と合わせた資質向上のアドバイスの仕組みを充実させる。</p>	<p>(1) 評価のあり方に関するPTを立ち上げ、2学期末までに次年度の方向性を示す。</p> <p>(2) ア. アーカイブ化した授業の映像等を活用した事例検討会を試行実施する。 イ. 教職員向け学校自己診断に「教材、教具の活用について」の項目を新設し、肯定的評価が70%以上。</p> <p>(3) ア. 電子黒板化ユニットを設置した特別教室での研究授業を各学部1回以上実施し、アーカイブ化して授業力向上の研修につなげる。 イ. タブレット型端末と無線LAN接続の基本的使用ができるとの教員回答100%にする。</p> <p>(4) ア. 支援教育力の向上を図るため、月1回以上、支援教育部よりニュースレター等を配信し周知する。 イ. 教員向け貸し出し図書(約100冊)をさらに30冊以上追加し、活用の推進を図る。</p>	
2 キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現	<p>(1) キャリア教育のさらなる推進。特に小・中学部における教育の意識改革や所属教員が高等部卒業後の進路環境を知ることによる、教育課程への効果的なフィードバックを図る。</p> <p>(2) 児童生徒の居住地にある学校との交流及び共同学習(居住地校交流)や学校間交流をさらに進め、連携向上のためのシステムを構築する。</p> <p>(3) 八尾アスレチックフィールドを活用した授業の推進や、ポッチャをはじめ、パラスポーツを授業等に取り入れたり、地域へのかかわりを深める活動を推進することで、ボランティアや余暇活動、健康維持につながる取組みを推進する。</p>	<p>(1) ア. 小・中学部の教員による施設事業所見学を計画的に行い、校内研修についても検討していく。 イ. 小中高連携による一貫した進路指導のために、キャリア教育について全校的なカリキュラムの構築に取り組む。</p> <p>(2) 居住地校交流の啓発や交流が、本校の教育活動とより密接に結びつくようさらなる実践を進める。</p> <p>(3) ア. 児童・生徒会主導による地域に向けた挨拶や啓発活動、および清掃活動等に取り組む。 イ. 昨年度、学校経営推進費の獲得で整備した、八尾アスレチックフィールドの活用を推進する</p>	<p>(1) ア. 昨年に引き続き、小・中学部教員の三分の一が事業所見学を実施し、今年度で全職員を完了。 イ. CSP(キャリアサポートプログラム)の販売実践を小学部、中学部にも拡大する。また他学部が交流できる授業を構築する。</p> <p>(2) 居住地校交流のマニュアル等を本年度末までに整備し、居住地校交流を児童生徒の担当が主として担えるシステムとして実施。</p> <p>(3) ア. 地域に向けた取組みを学校として1つ以上企画立案し、実施する。 イ. 八尾アスレチックフィールドを活用した計画を1つ以上実施する。</p>	

<p>3 安全安心＋快適で活力あふれる組織及び学校作り</p>	<p>(1) 中河内支援教育研究会での役割分担や活動を活性化させ、地域の支援教育力の向上に寄与する。</p> <p>(2) ヒヤリハットの共有、緊急対応体制のさらなる定着を図り、教員間の情報の共有と連携のもと、個々の教職員が常に児童生徒の安全・安心をしっかり守る体制を構築する。</p> <p>(3) 校務分掌や業務分担の見直し等で、業務の効率化を図り、児童生徒への直接的なかかわりの時間を増やす。</p> <p>(4) 教職員が健康にそれぞれの職務を遂行し、児童生徒・教職員ともに快適な職場の環境を構築する。また、会議等の効率化について検討する。</p>	<p>(1)ア. 昨年に引き続き、積極的に研究会に参加し、地域の仕組みの中で、運営や活動に携わる。</p> <p>イ. 地域の教職員をも対象とした研修や来校相談をさらに充実させる。</p> <p>(2)実証型避難訓練のさらなる継続実施と訓練の見学を含む保護者と連携した取組みを推進し、児童生徒及び保護者の安否確認のシステムを確立する。</p> <p>(3)次年度に向けて、首席の業務分担再編と行事部を廃止し、業務の精選と改善を図る。</p> <p>(4)ア. 各教員の持ち時間数の軽減を検討するなど、職場環境の改善を図る。</p> <p>イ. 会議設定や研修日の見直し等を通じて、年間スケジュールを改善する。</p>	<p>(1)ア. 中河内支援教育研究会を通じ、地域イベント等に、児童生徒の参加を検討する。</p> <p>イ. 校区内の各市の支援教育担当者会に出席し情報提供等を行い、地域の学校の研修を受け入れ実施する。</p> <p>(2)保護者を含めた災害後の引き渡し訓練に向けて、教職員の実働防災訓練を実施し、実際に保護者参加の訓練を試行実施する。</p> <p>(3)夏季休業明けには、分掌再編（7分掌から6分掌）の方向性を職員に提示し、年度内に改編のプランを確定する。</p> <p>(4)ア. 年度中に、授業時間について担当分掌より検討の提案をする。</p> <p>イ. 会議設定の試行を年度内に実施し、検証する。</p>	
-------------------------------------	--	--	---	--